

授業科目	女性史				実務家教員担当科目	-					
単位	1.	履修	選択	開講年次	2	開講時期	後期				
担当教員	倉富 史枝										
授業概要	明治期以降の日本の女性史を解説し、現在に続く問題の所在を確認する。まず、近代日本の女性史を学ぶ意義について確認する。その後、産業化が女性の民主化をもたらさなかった歴史を、明治時代、大正時代、15年戦争期、高度成長期、21世紀とたどる。特に、教育制度やメディアが意識形成に与えた影響に注意を払いながら授業を進める。										
授業形態	講義	授業方法									
学生が達成すべき行動目標											
標準的 レベル	明治から戦後に至る近代日本の女性史を大筋で理解し、現在に続く女性問題の所在を確認し、現代の女性が抱える問題と関連付けて考えることができる。										
理想的 レベル	明治から現在に至る近代日本の女性史に関する基本的な知識をよく理解し、これからの女性のあり方を主体的に考えることができる。										
評価方法・評価割合											
評価方法	評価割合（数値）				備考						
試験	75%										
小テスト											
レポート											
発表（口頭、プレゼンテーション）											
レポート外の提出物	15%										
その他	10%										
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	○	DP2	-	DP3	-	DP4	-	DP5	-	ナンバリング	WE10304J EN10304J T010304J
学習課題（予習・復習）										1回の学習目安 （時間）	
授業で示された資料を読み直し、現代の課題と関連付けて考える。										4	
授業計画											
第1回	テーマ：近代国家と女子教育 明治維新後の近代化に伴い良妻賢母教育が輸入された経緯と職業婦人の誕生について解説する。										
第2回	テーマ：主婦の誕生										

	明治末期から大正にかけて生まれた「新しい主婦像」について解説する。
第3回	テーマ：階級社会における労働婦人 産業化による女性の労働者化と過酷な労働環境について解説する。
第4回	テーマ：女性誌が伝えたこと 明治末期に創刊された女性誌が与えた影響について解説する。
第5回	テーマ：国民総動員と「婦人」 戦時下における「婦人」の国家的意味と女性運動の転向について解説する。
第6回	テーマ：民法改正の課題と50年代の逆コース 新憲法に基づく民法改正の婚姻をめぐる課題、及び、1950年代の逆コースとよばれるジェンダー不平等な制度化の現在に与える影響について解説する。
第7回	テーマ：恋愛結婚から専業主婦へというコース 戦後の女性の高学歴化をもたらした女子短大の登場、恋愛結婚の大衆化、高度経済成長期に進んだ性別役割分業について解説する。
第8回	テーマ：脱専業主婦がもたらすもの 性別役割分業社会の終焉と女性が働く意味について解説する。
テキスト	適宜資料を配布
参考図書・教材 ／データ ベース・ 雑誌等の 紹介	斎藤美奈子『モダンガール論』文春文庫、2003年 久留島典子他編著『歴史を読み替える ジェンダーから見た日本史』大月書店、2015年 落合恵美子『21世紀家族へ（第3版）家族の戦後体制の見かた・超え方』有斐閣、2004年 国立歴史民俗博物館監修「性差の日本史」展示プロジェクト編『新書版性差（ジェンダー）の日本史』集英社、2021年
課題に対するフィードバックの方法	成績発表後に回答例を掲示します。
学生へのメッセージ・コメント	日本史及び世界史における近現代史を復習してください。 試験及びレポートの内容については、授業の中で指示します。 明治維新後の近代化の歴史は遠い昔の話ではなく、今なお結婚制度や教育政策、家族政策に影響を与えています。その中であって、どのように主体的な生き方を選び取るか、授業の中で一緒に考えていきましょう。教員の問いに対する回答など授業への積極的な参加についても評価の対象とします。